

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課
☎0920(54)2341

対馬各地の地名

(大字編)

【美津島町芦浦】

『津島紀事』によれば、現在の芦浦付近は、元々海であつたが、川の運搬作用により土砂が堆積し、さらに芦(葦)が生えるようになつたことで、土地が形成されていったことに由来して「芦浦」と呼ばれるようになったと伝わります。

地区内には、弥生時代の洞窟遺跡があり、古くから人が住んでいたことが分かっています。また、芦浦の支湾・雷浦には、江戸時代後期に鯨組の基地が置かれ、捕鯨基地としても発展しました。

【美津島町賀谷】

古くは、鶯谷・賀屋・加谷とも書かれていました。

『津島紀事』では、恵比須神社に鶯草葺不合尊(Ⅱ)うがやぶきあえずのみこと)が祀られていることに由来するのではないかと推察しています。

鶯草葺不合尊は、山彦と玉依姫命との間に生まれた神とされ、神武天皇の父とされる神です。その「うがや」という読みが転じて「がや」と呼ばれるようになったのではとされています。この他、芦浦同様、海岸線に堆積した土砂に「茅」が繁っていたことから、転じて呼ぶようになったとも伝わります。

【美津島町濃部】

古くは野部とも書かれていました。『津島紀事』によれば、賀谷の由来となつたとされる「鶯草葺不合尊」の父・山彦彦(別名彦彦火)

出見尊が、対馬に来て、この地に隠れたという伝説から「潜里」(Ⅱしのぶさと)と呼ばれるようになり、これが転じて「のぶ」と呼ばれるようになったと伝えられています。

室町時代に朝鮮通信使として来島した申叔舟がまとめた『海東諸国記』には、「老夫浦二百余戸」と記されており、浅茅湾内でも有数の大集落であつたことが記録されています。



湾が奥に長い芦浦湾(美津島町芦浦)

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●お近くの公民館から、図書館の本を予約できます。
毎月第1、第3木曜日(カレンダーにより変更の可能性あり)に各地区公民館へ配送しますので、ご利用ください。

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

今月のおすすめ新着本

『フレーバー茶で暮らしを変える』

ステファン・ダントン/編

フランス人ソムリエが、日本茶の魅力を世界中で共有するためにとつた方法は、柑橘類やハーブを加えたフレーバー茶の開発。その魅力を紹介する一冊。

『眠れなくなるほど地理が おもしろくなる本』

ワールド・ジオグラフィック・リサーチ/著

つつい人話にはいられない雑学を、たぶりの図や写真で紹介する「地理雑学本」の決定版。

『カエルの樂園』

百田 尚樹/著

安住の地を求めて旅に出たアマガエルたちは、平和で豊かな国「ナパージュ」にたどり着く。そこでは心優しいツチガエルたちが、奇妙な戒律を守り穏やかに暮らしていた。ある事件が起こるまでは...

『食物アレルギーのひみつ』

株式会社学研プラス/著

食物アレルギーをもつミクがクラスに転入してきた。コウタたちは、それをきっかけに食物アレルギーという病気について学んでいく。

『ホーホーはらへり フクロウさまだ!』

ショーン・テイラー/著

誰もが恐れる変身名人のフクロウさまは、今夜も、晩飯を狙って獲物に迫るが...

『しょうぼうねこ』

エステル・アベリル/著

黒い斑点のある黄色いノラ猫・ピククルズ。ある日、高い木に登って降りられなくなったピククルズは、消防士に助けられ、消防署に連れていかれます。